

日本心理学会第 87 回大会「学部生・高校生プレゼンバトル」

2023 年 9 月 15 日（金）～9 月 17 日（日） 録画公開方式

※（）内は動画再生時間

(00:00:11)

1. 統合失調症 (患者) への偏見弱化を目的とした介入方法の選定について

○塩崎 早織 上智大学

統合失調症についての偏見は事実に則さないものも多い。本研究では統合失調症 (患者) への偏見は統合失調症を罹患した経験のない方の知識不足により生じていると考え、当事者が統合失調症について語る映像の視聴を介入として行った。本研究では、時点 (2 水準) と群 (3 水準) の 2 要因デザインの実験をおこなった。結果はほぼ全ての群においてアセスメントのスコアは低下していたが、ほとんどの効果は有意ではなかった。ただし全ての群においてスコアが低下していたことから、介入により何らかの教育効果があったことは認められる。

(00:03:50)

2. 恋愛を上手く進めるには-運命、相性、結婚観、何が重要なのか?-

○釜 優月 北海学園大学

山本 咲来 北海学園大学

近年では SNS を通じて交際を開始したり、独身を貫いたり、結婚しても子供を持たないなど、恋愛の在り方が変化していると考えられる。現代の多様な恋愛の在り方について検討するため、恋愛観の調査を行った。20～50 代を対象に、パートナーがいる・いないで運命、相性、結婚観に差があるのかを捉えるデータを収集した。結果を基に、調査の構成を考え、社会状況の変化が恋愛観にもたらす影響を検討する予定である。

(00:07:46)

3. 愛着と向社会的行動の関係性

○上村 美結 奈良県立青翔高校

米田 朱里 奈良県立青翔高校

本研究の目的は、関係性アプローチに従って、友人と家族に対する愛着の強さが、家族、友人、見知らぬ人への向社会的行動との関係性を検討することである。本校の生徒を対象に質問紙調査を実施した。マン・ホイットニーの U 検定と相関分析の結果、家族や友人に対する愛着の高さは、それぞれに対する向社会的行動の高さと関連していることが示された。一方、家族や友人に対する愛着は、見知らぬ人に対する向社会的行動とは無関係であることがわかった。

(00:11:29)

4. 偏差値とワーキングメモリ

○小柳 祐七 下関市立大学
角南 歩佳 下関市立大学
関 雛子 下関市立大学

ワーキングメモリは、理解・学習・推論といった複雑な課題に必要となる情報の一時保存ならびに操作を可能とする認知システムである (Baddeley, 2000)。ワーキングメモリの個人差は、リーディングスパンテスト (RST) によって測定される (Daneman & Carpenter, 1980; 苧阪, 2002)。RST の得点は、アメリカの大学入学時に利用される言語性標準学力テスト (VSAT) や日本の大学入試センター試験に類似した国語の長文読解テストと有意な正の相関をもつことが確認されている (Daneman & Carpenter, 1980; 苧阪・苧阪, 1994)。そこで、本研究では、入学偏差値の異なる2つの大学の学生を対象にして、偏差値とワーキングメモリの関連について検討を行った。

(00:15:19)

5. 笑いの文化差を生理指標計測から探る

○國分 愛莉 東京理科大学
柏 美優 東京理科大学
安達 勁亮 東京理科大学
市川 寛子 東京理科大学

日本のお笑い芸人が英国の大会で勝ち進んだニュースが大きな話題になった。笑いの“ツボ”には文化差があることが知られており、また、笑いはヒトの身体に生理変化を起こすことから、日本のお笑いに対する反応は文化間で異なると考えられる。そこで本研究では、お笑いビデオ視聴中の心拍や発汗などの生理指標を計測することで、笑いの“ツボ”が文化間でどのように異なるかを検討したい。まずは日本で方法を確立し、将来的に英国研究者との共同研究を目指す。

(00:19:18)

6. 「相談してみませんか」は援助要請意図を高めるのか：援助要請を啓発するリーフレットを用いた検討

○佐藤 優綾 徳島大学
小澤 怜奈 徳島大学
田村 優衣 徳島大学
甲田 宗良 徳島大学

日本における自殺対策の一つに援助要請促進メッセージを含むリーフレットの配布が

ある。しかし依然として悩みを抱えても相談しない人の割合は高い。その原因の一つに、「相談してみませんか」という援助要請を生起せざるメッセージが、実際に支援が必要な人たちにとっては却って負担となっていたり、援助要請行動を回避するような認知・行動・感情反応を引き起こしている可能性がある。本研究では、準実験的な手法を用いて、この可能性を実証的に検討することを目的とする。

(00:23:18)

7. 飼育下の子キリンにおける社会的行動の傾向の変化

○山口 隼 私立関西大倉高校

鈴木 空翔 大阪府立北野高校

本田 克樹 大阪府立北野高校

私たちは、京都市動物園で生まれたオスの子キリン(カブト 2022年8月19日生)の他個体との社会的行動を観察した。カブトの「社会的行動の傾向の変化」を捉えるべく、同個体を追跡した動画を18~26週齢の間に撮影し、それらの動画の中で事前に定義した社会的行動が、それぞれどれだけの頻度で行われたかを分析した。分析の結果、成長とともに社会的行動をとる時間が増加傾向にあった。特に、「接近」「共同での採食」の2つの行動が増加傾向にあった。

(00:27:17)

8. ホラー映画を見れば自信が取り戻せる!?!—課題固有の自己効力 感の低下と恐怖映像視聴率の増加—

○山口 春菜 大阪市立大学

ホラー映画には、悪影響が示唆されている暴力的な映像など、不快になる描写が多く含まれる。にもかかわらず、我々は惹き付けられる。意外かもしれないが、先行研究では、その理由の1つとして、怖さに耐えて視聴できたという達成感を味わえることがあると考えられてきた。つまり、ホラー映画には、心理学的にポジティブな影響があるかもしれないのである。しかし、この仮説を実証的に示した知見は少ない。故に本研究では、自己効力感(達成感により強化される)を操作的に低められた実験参加者が、その向上を目的にホラー映画の視聴を望むことが本当にあるのかを検証することにした。

(00:31:17)

9. 引きこもりは受動的攻撃性の表れか

○重藤 彩伽 岡山大学

現代の研究において引きこもりは、主に他者評価への過敏性、自己嫌悪感、生きる意味の消失などが原因であると考えられている。しかし、引きこもりは本人の内的な心

理特性だけでなく、職場でのサボタージュや故意的な仕事の遅延などの組織阻害行動に代表される受動的攻撃性の表れであると考えられることも可能なのではないか。このような考えのもと、韓国で発表された受動的攻撃性を評価する尺度の日本語版を作成し、引きこもりの心理的特性を評価する尺度との相関を検討、引きこもり要因理解の新たな見解を導こうとしているのが本研究である。

(00:35:15)

10. 室内植物は呼吸法の効果を増強するか

○藤井 芹奈 徳島大学

甲田 宗良 徳島大学

松丸 侑加 徳島大学

片山 知香 徳島大学

リラクゼーション法の一つである呼吸法は、不安の軽減に有用であり、実施が比較的容易であることから、非常にポピュラーなセルフケアの技術である。こうした技術は、その内容や方法が注目されやすいが、実施する環境はあまり注目されてこなかった。ところが、「室内植物にストレス軽減効果がある」という知見に代表されるように、「環境」と不安の関係も無視できない。そこで、本研究では、呼吸法の効果を室内に植物がある群と無い群で比較・検証する。

(00:39:14)

11. ドット密度と対応による Reverse-Phi motion の発生

○山内 脩平 愛知淑徳大学

Reverse-Phi motion とは動くパターンの刺激のコントラストを逆転させることで運動方向と逆に知覚する錯視現象である。本実験はランダムドット図形を用い、ドットの密度と対応点の割合を調整することで運動知覚にどう影響するか調べることを目的とした。結果は、対応点の割合が増えることにより Reverse-Phi motion が起こりやすくなる傾向が認められたが、ドット密度に関しては1部の組み合わせを除いて有意差が認められなかった。今後は密度と対応の相関関係について調べていく。

(00:43:09)

12. An Investigation of the Relationship Between University Students' Learning Motivation and Emphasis on Employability

○ギネア高木 賛美 法政大学

Rather than promoting the inherent value and joy of learning, aren't Japanese universities undermining students' motivation to learn by ingraining the importance of learning in the discourse of becoming competent workers? Drawing on Self-Determination Theory (Ryan &

Deci, 1985), I propose an experiment to test whether the tendency of Japanese universities to emphasize employability would reduce students' motivation to learn. In the study, participants will rate their learning motivation after imagining being in an undergraduate program that either emphasize or not emphasize employability. If successful, this research could call forth a reassessment of Japanese universities' employability-oriented learning policies.

(00:47:04)

13. AI は人類の友達になり得るか？－ChatGPT を例にした AI の活用可能性研究の展望－

○齋藤 大和 国際医療福祉大学
岸 大翔 国際医療福祉大学
堀井 翔太 国際医療福祉大学
亀山 晶子 国際医療福祉大学

現在、人と人工知能（AI）との相互作用を扱う Human-Agent Interaction の研究が盛んである。AI との会話システムも開発されてきているが、AI をどう役立てられるかはユーザーに委ねられていると言える。我々は、ユーザーの態度や動機から AI との親和性の高い潜在クラスターを探り、AI とのコミュニケーション（ChatGPT 等との会話）の持つ効果を検討する研究案をもとに、今後の AI の活用可能性を広げる心理学研究を提案する。

(00:50:57)

14. 新しい時代の仕事との付き合い方－若手社員のコミットメントに着目した検討－

○崎山 瑞輝 国際医療福祉大学
棚谷 優美 国際医療福祉大学
谷内 文音 国際医療福祉大学
亀山 晶子 国際医療福祉大学

近年、働き方の多様化に伴い、労働への動機も多様化している。組織への帰属意識を表す概念である組織コミットメント（以下、Co とする）においても、組織や仕事への愛着が強い Co や、何となく辞めないでいる Co など、その在り方は様々である。我々は、企業で働く 20 代社会人男女に実施した調査から、組織環境や個人要因による Co の在り方の違いや特徴を分析した。この結果をもとに、これからの社会での働き方の在り方や、仕事との付き合い方への問い直しを行う。

(00:54:53)

15. 加害を起こし得る自身の優位性は「正しく」認識されているか？～ハラスメントの観点から～

○小林 愛佳 奈良女子大学

「セクハラ」から始まり「ハラスメント」という言葉が日本で広く知られるようになって数十年、近年はパワハラ・モラハラ・アカハラという、より特徴的なハラスメントの存在が認識されるようになってきた。上下関係も含むようなあらゆる面における二者間の非対称性・非対等性が、ハラスメントの生まれる基盤となる。加害者になり得る側は、自身の持つ優位性を正しく認識しているのだろうか。そしてその認識は、潜在的に相手を支配し得る自身の権力を自覚することに繋がるのか。また、その自覚が下位となる相手への気遣いや配慮を生み出し得るのか。これらの問いについて検討を試みる。

(00:58:51)

16. アドバイスをもらいにいくのは恥ずかしい？

○田崎 希実 奈良女子大学

目標を追求する際に他者にアドバイスをもらいにいくことは、得られた気づきを自身の成長につなげることができるために重要である。しかし、アドバイスをもらう相手がいてもためらう人もいる。本研究では、このような個人差が生まれてしまう要因として、知能のマインドセット (Dweck & Yeager, 2018) に着目した。知能のとらえ方によって困難に対する反応や目標への取り組み方が異なるという知見をふまえ、アドバイスを求める行動との関係性を検討する。

(01:02:27)

17. カウンセラーの技法や流派への信頼度と援助効果の関連性に関する研究

○彭 暁陽 聖学院大学

ラポール構築はカウンセリングの基礎である。現在、多くの技法がある。しかしながら、これらはすべてカウンセラーの視点からまとめられた技法。本シンポジウムでは、クライアントの視点から、カウンセリングにおける流派と技法への信頼度と援助効果の関連性を探究することを目的としている。参加者には信頼度と最終的な援助効果をアンケートで収集する。また、参加者との議論を通じて、さらなるラポール構築の充実ための示唆を得ることが期待されている。

(01:05:58)

18. ディズニーランドの楽しみ方 ～遺伝的アルゴリズムを用いて～

○上村 大地 専修大学

野村 圭史 東京大学

人気テーマパークである、東京ディズニーランドには 39 個のアトラクションが存在する。しかし、その多さゆえにどの経路でアトラクションを周ることが好ましいかを判

断することは困難である。本研究では、遺伝的アルゴリズムを用いて、アトラクションの「待ち時間」及び「人気度」、さらにアトラクション間の「移動距離」がパークでの「満足度」に影響すると仮定し、満足度が最大となるアトラクション巡回経路を探索することが目的である。本発表では、経路探索及び実際のテーマパークでの経路実施に関する構想について発表させていただく。

(01:09:58)

19. 感情語彙の習得による、感情の分化・精緻化が筆記開示等に及ぼす影響

○佐野 愛斗 徳島大学

感情を表すときに「やばい」など、複数の感情を一つの語彙で表してしまう状況を背景としている。目的は、感情語彙を教育することで、感情を分化・精緻化することと、それはどのような効果があるのかを分析することである。筆記開示や心理面接時に自分の気持ちを開示する際の効果を想定している。方法等は先行研究をまだ調べることができていないので示すことはできないが、仮説としては、曖昧な感情や、今までどう表せばよいかわからなかった気持ちに対応する言葉を見つけることで、感情表現にポジティブな影響があるのではないかと考えている。

(01:13:53)

20. 幸福感は利己的関心を強め、悲哀感は利他的関心を強める : Tan & Forgas(2010)の再検討

○小林 尚樹 東北学院大学

本研究では、Tan & Forgas(2010, 研究 2)の概念的追試を行った。幸福感または悲哀感を喚起させた実験参加者に独裁者ゲームの分配役を割り当て、内集団成員あるいは外集団成員を受け手として資源分配課題を行わせた。その結果、相手が外集団成員のときは、Tan & Forgas の結果と一致して、悲哀感より幸福感が分け手を利己的にした。しかし、相手が内集団成員のときは、逆に幸福感より悲哀感が分け手を利己的にし、悲哀感が状況によっては利己的な行動を促進する可能性があることを示唆した。

(01:17:51)

21. ひきこもり状態となった社員は上司・同僚からどのような印象や態度を抱かれやすいか：一般企業の管理職・非管理職を対象としたビネット調査から

○南 蒼斗 徳島大学

松丸 侑加 徳島大学

片山 知香 徳島大学

甲田 宗良 徳島大学

多くのひきこもり者が存在する日本において、病的なひきこもり状態の緩和は喫緊の

課題である。一方、独力でひきこもり状態から脱することは困難であり、適切な支援が求められる。本研究の目的は、ひきこもり者の復職及び職場適応の促進である。そこで、会社員を対象に、ひきこもりの状態を呈する架空事例を用いて、その印象や態度を調査する。本研究は、ひきこもり者が職場でどのように認識されているか、その実態を明らかにし、より良い支援策の解明に資するものである。

(01:21:51)

22. 複雑系としてのうつ病の数理シミュレーション

○大水 拓海 専修大学

近年、精神障害を症状が相互作用する複雑系として捉える研究アプローチが注目されている。複雑系としての精神障害研究では、各症状をノードとしたネットワークモデルが用いられる。本研究では、症状ネットワークの時間的挙動を検証するシミュレーションを実施し、うつ病の症状ネットワークに治療コンポーネントを導入することを提案する。また、治療コンポーネントと症状ネットワークの構造の関係から、複雑系としてのうつ病に対する効果的な介入方法の探索を試みる。

(01:25:44)

23. 企業における女性の健康課題に対する取り組みと多元的無知

○村松 優希 新潟大学

将来の健康や妊娠・出産のために現在の健康を管理するプレコンセプションケアが注目されており、ヘルスリテラシーの高さは仕事の成果の向上に関連することがわかっている。一方で健康課題により勤務先で困難を感じた経験がある女性がいるにもかかわらず企業における支援は十分ではないのが現状である。そこで、本研究では企業の取り組みの遅れに多元的無知が関わっていると仮説を立てた上で、企業で働く人を対象にした質問紙調査によって女性特有の健康課題に対する態度を明らかにする。

(01:29:33)

24. アレキシサイミアと共感性の関係はストレスにどう影響を受けるのか？

○亀井 菜名 京都先端科学大学

アレキシサイミアと共感性の研究における下位因子に着目した研究は少なく、また、ストレスとの関連について検討されている文献が少ない。そのため本研究では、外的志向と認知的共感の関連を測り、その関連がストレスの有無によってどのように変化するかを明らかにしていきたい。方法として、アレキシサイミア傾向と共感性は質問紙を使い計測し、それらの相関係数がストレスの有無によってどのように変化するかを検討する。

(01:33:11)

25. Latent Semantic Scaling (LSS)を用いて付与した感情極性値による不満度の予測

○小林 美月 専修大学

野村 圭史 東京大学

Watanabe (2021)は、単語埋め込みを用いた極性辞書生成法 (Latent Semantic Scaling, LSS) を提案している。本研究の目的は、LSS を用いて付与した感情極性値が実際の人間の不満度をどの程度予測できるのかを検証することである。不満感情に焦点を当てた場合、感情極性値と不満度の間に負の相関があると予測する。古典的な辞書分析と異なり、感情語彙ではない一般語彙に対しても感情極性値を算出可能となり、微細な不満感情を捉えることで予測性能向上が期待できる。

(01:37:10)

26. マルチ商法に引っかかる人ってなんで減らないの！？ —被害者の心理特性と数的思考力の比較を通して—

○石川 航一郎 大阪市立大学

緒方 康介 大阪公立大学

現代の大学生において友人・知人からマルチ商法に勧誘されることはもはや珍しくない。つまり、誰にでも起こりうる事象である。では、なぜ日本でマルチ商法に騙される人は減らないのだろうか。期待値の計算など、数的思考を働かせれば、儲からないことは自明であり被害回避できそうにも思える。しかしながら、マルチ商法に関する研究知見はあまり報告されておらず、騙されやすさの要因も明確になっているとは言えない。そこで、本研究では①性格的な心理特性と②数的思考力に絞り、どちらがマルチ商法に対する騙されやすさに影響しているのか、実験的な研究デザインを用いて調べることにした。

(01:41:10)

27. 受験結果の原因帰属が将来の受験の動機づけ始発方略に及ぼす影響

○森垣 奈々 京都教育大学

人は、過去の経験によって次に挑戦する際に自信を持つことができたり、反対に消極的になったりするだろう。挑戦の一例として大学受験を挙げると、その結果は自己肯定感に作用し、将来の就職における受験やその他の行為に対する動機づけに影響すると考えられる。そこで、本研究では大学生を対象に質問紙法を用いて過去の受験結果における原因帰属が将来の受験の動機づけ始発方略に及ぼす影響とその媒介要因として現在の自己肯定感の影響について検討する。

(01:45:04)

28. Serpentine Illusion の錯視量におよぼす線格子と背景の輝度コントラストの効果

○早川 葵 愛知淑徳大学

Serpentine Illusion とは、位相シフト線格子によって誘発される視覚運動錯視で、刺激を上下に動かすと、幻想的な輪郭に沿った対角線の運動と横方向の運動が認められる錯視現象である。本実験では Serpentine Illusion の線格子と背景の輝度コントラストを変化させ、錯視量の効果について調べることを目的とし実験した。結果は、対角線運動条件における横運動は起きにくい、横運動条件における対角線運動は起こりやすいことが分かった。今後はこの結果についてどのような原理で知覚されるのか調べていく。

(01:48:48)

29. ヴィーガンの人と幸福感について

○崔 裕眞 東北学院高校

ヴィーガンとは、動物からの搾取及び残酷な行為の排除に努める生き方に基づいて、一般的に魚肉、卵、乳製品の動物性食品を摂取しない人を指す。Leonard(2017)によると、ヴィーガンになる理由の一つに認知的不調和を解消することが挙げられている。「動物が好き」「環境問題が気になる」という思考と動物性の物を食べるという行動の矛盾を解決するために自らの行動を変容させたという説明である。そこで、本研究では、ヴィーガンの人と非菜食主義者の食生活への満足度に差があるのかを明らかにすることを目的とする。研究方法としては、動物や環境問題への関心が同程度であるヴィーガンと非菜食主義者のグループを対象とし、質問紙調査を行う予定である。

(01:52:22)

30. 福島第一原発事故の被災者のストレスコーピングに関する研究—福島大熊町の被災者への面接調査からの検討—

○山田 瑤人 帝京大学

本研究は、福島第一原発事故の被害により今なお避難生活を余儀なくされている福島県大熊町被災者の精神的健康の問題について検討する。被災者の精神的健康の問題を明らかにする上では、災害の被害だけでなく、被災者が日常的にどのようなストレスコーピングを行なっているのかを調査、検討することも重要である。本研究では大熊町被災者に面接調査を実施し、日常的に行なっているストレス解消法を明らかにすることで、被災者にとっての適応なコーピングがさらに増えることを目的とする。